

発表 ①

地域とのかかわりと自然農（お野菜をお届けできる喜び）

前田 生敏

自然農歴 10 年

畑 9 反（3～4 反休ませながら）

田 2 反（無農薬・無肥料栽培）

島根県津和野町 在住

しんとした静かな夜に時折けものの鳴き声がこだまする山合いの小さな集落で空が白みはじめて辺りの景色が白く化粧をしたように一変した姿を見て本格的に冬が来たことを感じながらの朝を迎えました。昨日は年の瀬らしく少し乾いた冷たい北風が吹く畑で、冬野菜の収穫。山陰地方らしい曇りがちの空の下で、時折雲の隙間から太陽の光が緊張した体をゆるめてくれます。小松菜、高菜、かぶ、大根、人参、水菜、青梗菜、長ネギ、じゃがいも、里芋の収穫をして冷たい水で手をかじかませながらさっと土を落として生命力あふれる野菜たちに喜びを感じながら箱に詰めていきました。朝から茹でたプルンプルンのわら灰こんにゃく、前日についたもちもちの玄米餅、黒く艶やかな黒大豆などお正月に美味しく食べて頂けることを思いながら、今年最後のセット野菜の出荷をしました。楽しみにしているお客様に喜んでいただけることが励みになり、私の人生を豊かにしてくれると思い農業を営んでいます。

私が初めて自然農に出会ったのは11年前の3月でした。私は長男で兼業農家としていずれ実家に戻ることを前提に東大阪の町工場に就職し、同時にバブル景気が始まり、若い私は社会に出て右肩上がりに収入が増える事に何も疑問に感じることもなく世間に流されながら生活を送っていました。農業は好きではなかったのですがこのまま都会で生活していきたいと思っていました。バブルがはじけて収入は少しずつ減っていく中でも、また景気はいつか戻るから今はとにかくある仕事をやっという周りの空気のなかで、将来について不安を感じる日々でした。

何をすればよいか定まらないままだったとき、卒業25年目の中学校の同窓会があり、田舎で頑張っている同級生と会い田舎に帰り農業をしようと思い始めました。どうせやるなら農薬や化学肥料に頼らない農業がしたいと思い、何冊かの農業関係の本を読み、とりあえず見学に行こうと思い最初に選んだのが赤目自然農塾でした。

何も知らずに見学に行ったその印象は、畑は耕して草が無い姿が当たり前と思っていたのに草の中に種下しをしていく川口さんやスタッフの姿に驚きました。そしてそこに学びに来られている方と接し、その安心できる空間に、私もやってみたいと思い、1年間通って自然農の世界について学びました。

そして、約10年前に島根に帰り自給用の野菜と小さな田んぼでお米作りを始めました。その後、8年前に津和野町でIターン・Uターンの方を中心に安全な野菜やお米づくりに関心を持っている人達のグループができ、それがきっかけで7年前から私が住んでいる須川地区の休耕田をお借りして販売用の野菜を育てはじめ関東などにセット野菜を送っていました、今はグループの活動はしていませんが、その中のメンバーの一人が津和野の町の元民宿の食堂を改装して誰でも出せるレストランを作ったことがきっかけで、そこで年4回その季節のお野菜を使ったランチを地元の方に味わっていただきたいと思い料理してお出ししています。

またお声がかかれば須川地区の交流会や集落の忘年会や地区全体のブースとしてイベントに出店し自然農のお野菜を使ったお焼きやぜんざい、焼きいもなどをお出しして自然農で育てた野菜への思いを少し伝えながら参加しています。

2018年は1月の大寒波や7月の豪雨やその後約2ヶ月近くの日照りと猛暑、異常気象に対処できずお客様にご迷惑をおかけしたり学ぶことの多い1年でした、今の畑は豊かな実りで安心の世界です。安心してお客様に届けることができることに感謝しながら自然に寄り添っていきたいと思います。